



「神様のご計画に思いを馳せる」

2022年2月



河内長野教会牧師 森田 恭一郎

「主がお入り用なのです」

(マタイによる福音書21章3節)

今回のテーマは「主がお入り用です。神様のご計画があなたにも」です。

主イエスは「**主がお入り用なのです**」と弟子を通して子ろばの持ち主にお語りになりました。子ろばに乗ってエルサレムに入城するためです。戦争で用いる速くて強い軍馬ではありません。速く走れないズングリとしたろば、しかもまだ弱々しい子ろばです。子ろばをお用いになった理由を、マタイ福音書は旧約の預言書を引用してこう説明します。「**見よ、お前の王がお前の所においてになる、柔和な方で、ろばに乗り、荷を負うろばの子、子ろばに乗って**」(マタイ福音書21章5節。ゼカリヤ書9章9節)。エルサレムに入城なさる主イエスが柔和な方であることを示すためです。柔和、国語辞典では「優しく穏やかなさま、とげとげしくない、もの柔らかな様子」などと説明されますが、聖書では、他者の荷を負うさまです。この子ろばは見事に主イエスを証しました。人々は、十字架の主イエスを見ながら子ろばに乗られる姿を思い起こしました。今、人間の罪の重荷を負っておられるのだ、と。

軍馬とろばとどちらが格好良いですか？ 主イエスは子ろばを選ばれました。子ろばも持ち主も、主のお入り用とされて嬉しかったことでしょう。主イエスも十字架に向かうに当たり、子ろばに乗るのを喜びになりました。

聖書に「**容姿や背の高さに目を向けるな。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る**」(サムエル記上16章7節)とあります。次期王様を選び出すにあたっての神様の言葉です。これは「人は外見じゃないよ、心だよ」ということではありません。この時の選びは周囲の予想と異なってダビデでした。まだほっぺたも赤い少年でした。外見も心も、所詮、人間は完全ではなく弱さを抱えています。人間の側の善し悪しではなく、神様のご計画をその人の心に置いておられる。それが「心によって見る」ということです。ここでは、次期王様にはダビデをお用いなるというご計画でした。

社会には社会の人物評価があるでしょう。成績の数字も評価の一つでしょうか。それと併せて、神様には神様の一人ひとりへのご計画があります。主がお入り用なのです、このことのためにあなたを用いよう、というご計画です。**あなたにご計画をお持ちの神様を信じ、神様に誠実に仕えて、神様があなたとその賜物を用いて下さるご計画の中に生きる。**学園で学びながら、あるいは受験に臨みながら、将来に向けての自分に対する神様のご計画に思いを馳せると、不思議でもあり楽しみでもあります。

